

No.	10	和田 敏明
質問事項	1	地域交通について
<p>交通弱者、交通不便地域の解消について</p> <p>交通弱者、交通不便地域の解消については、全国各地、特に地方自治体で対応に苦慮されておられます。</p> <p>本市においては、昨年3月に策定した防府市地域公共交通網形成計画に基づき、バス路線の再編や地域の実情に応じた公共交通サービスの検討などを進めているところであり、これまでバス停の新設やデマンド型乗合タクシーの導入などを実施しております。</p> <p>しかしながら、タクシーの運転手不足等の理由により、今後デマンド型乗合タクシー等を拡充していくどころか、現在導入している切畑、玉祖デマンドタクシーをも維持していくことが難しくなっていくのではないかと考えられます。</p> <p>とは言え、これから訪れることが確実視されている、超高齢化社会に対応していかなければなりません。</p> <p>医療機関やスーパー等から離れた場所にお住まいの方々、また運転免許証を返納された方、或いは、車両を運転することが困難な方々は、どのように生活していけばよいのでしょうか。</p> <p>本年1月に行政視察した、群馬県太田市では、介護福祉施設がデイサービスの送迎業務の効率化を図るためAI技術を駆使して市の補助がない中においても、要支援者、要介護者の外出支援をなされておりました。</p> <p>簡単に説明いたしますと、介護施設に通われている方々が、買い物や通院等で外出が必要になった時に、スマートフォンを使って最寄りの送迎中の介護送迎車両を手配することができます。</p> <p>肝心なのは、介護施設の通所日にせつかく歩行などの訓練をしても、他の日に家でゴロゴロしては、訓練の意味がなくなるということから、デイサービスを利用しない日でも外出支援を考慮されていることです。</p> <p>いつでもどこでも出発地・目的地を入力すれば、人工知能（AI）が最適な送迎車両を瞬時に判断・手配する。</p> <p>素晴らしい取り組みに感銘を受けました。</p> <p>しかしながら、今後の課題として、既存の介護福祉サービスの対象とはなっていないが、毎日の買い物など、移動が困難な方々の外出を今後どれだけ支援していけるか。</p> <p>また、補助金等外部からのバックアップなくしての運営や拡充は困難と思われるなど、資金面や既存の公共交通機関との連携等、様々な課題があるとのことでした。</p> <p>また、これまで私も一般質問等で訴えかけてきましたが、視察の対応をしていただいた代表の北嶋史誉氏のお話の中で「免許証を返納してから制度を作るのでは手遅れであり、制度を作らなければ免許証は返納できないし、返納すれば生活ができない」と強くおっしゃられていました。</p> <p>まったく同感です。</p>		

今回の視察には総合政策部の職員も同行されておりますので、以上のことは当然踏まえておられると思いますが、現在、本市では、民間主導で新たな交通サービス実現に向けた動きが一部地域に限られている中で、今後は国の補助金等だけを当てにすることなく、市独自の方策として交通弱者、交通不便地域の解消の実現、また持続可能な交通手段についてどのようにお考えでしょうか。

私は、単身者・高齢者のみの世帯数、それを知れば自ずと何をすればいいか答えが見いだせるのではないかと思います。

また、本年2月に玉祖デマンドタクシーの実証運行に伴い、アンケート調査が実施されております。

私は現在、自由ヶ丘自治会の自治会長と玉祖連合自治会の副会長を仰せつかっているためか、同じ玉祖地域にありながら、デマンドタクシーの対象エリアに入っていない地区の多くの方々からこのアンケート調査に対して「馬鹿にしちよるんか」「わしゃ書かん」などの声を多く聴いております。

登録者への配慮と拝察いたしますが、あえてお伺いいたします。

なぜ、デマンドタクシー対象エリア以外の地区にお住まいの方々に、デマンドタクシーの利用についてアンケート調査を行われたのでしょうか。

最後になりますが、私は、一番の理想は三世代が同居し、共に支えあうことで少しでも問題が解消できれば、これに勝る政策は見当たらないのではないかと思います。

しかしながら、本市は何故か県に合わせ、三世代同居の促進の規模を大幅に縮小されております。

それならば、交通弱者・交通不便地域等の解消は、行政が責任もって進めていくべきではないでしょうか。

行政だけで進めて行くことが難しいのであれば、例えば、エリアは大字単位ぐらいとし、そこに行政がワゴン車程度の車を提供し、その運転手等はエリア内の住人で手配していただく、というような方策を進めては如何でしょうか。

執行部のお考えをお聞かせください。